

第24卷・第1号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和51年1月1日（毎月1回1日発行）

牧草園藝



創立 25 周年 記念

1

雪印種苗株式会社

当社アピール

輪作のすすめ

土は農業の生命、土づくりには緑肥飼料作物を入れた輪作が第一。

自家菜園のすすめ

新鮮な野菜は健康のもと、たのしみながら野菜をつくり家庭経済にも役立てよう。



クローバハラーの運転

結実期にアカクローバを刈り取って乾燥し、この機械に投入すると、種子は茎稈から分離、粗精選の状態に出て来るアカクローバ種子脱粒機。これは国産第1号機の試運転風景で、昭和16年のことです。右側の白衣姿が当時の五十嵐社長。

●目

次●

創立25周年の新年を迎えて
童年を迎えた飼料対策
創業35年創立25年雪印種苗小史
役員構成・社業執行体系

五十嵐 清……………1
三浦 梧 楼……………2
中野 富 雄……………5
編 集 室……………18

根室地域広域農業開発事業

酪農振興の大きな施策として、大型畜産団地の建設が進められていますが、その一つとして北海道根室地区にいわゆる「新酪農村」建設の第一期工事が完了、昭和50年10月に8戸が入植して、その第一歩を踏み出しました。この事業は、昭和55年完成をめどとし、一市二ヶ町村にわたる約35万haの土地を対象とし、総工費650億円、1戸当り50～60ha、各戸乳牛約70頭の近代化草地酪農場を113戸増設して分譲・入植させ、完成時には草地面積約17万ha、乳牛頭数21万頭、肉牛頭数5万頭の一大畜産団地とするものです。

表紙の写真は、その第一期入植分の近代牛舎と草地で、未来の酪農理想郷の姿を示しています。